

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770105860		
法人名	社会福祉法人 宝生会		
事業所名	あいする久世グループホーム		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府堺市中区東八田387-1		
自己評価作成日	令和5年8月5日	評価結果市町村受理日	令和5年10月25日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2770105860-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和5年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中、極力業務にとらわれない様、利用者との関係を築けるよう、マンツーマンでの対応が取れる様に散歩や外気浴等の時間を設けその日、一日、一日を笑顔で楽しく過ごして頂けるよう談話等のコミュニケーションに力を入れ、またその時々表情を理解し、その人がその際に不安に思っている事等、極力談話の中で和らげる様に努めている。また、住宅街で比較的静かな場所に有る為、お地蔵様に参りに行ったり、近隣の散歩、だんじり祭り見学を行い、施設周辺の清掃活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の周囲には昔ながらの地域の広場やお地蔵様、お寺があります。隣接する隣家の庭には柿の木や草花が植えられ、利用者とも挨拶など交流するきっかけにもなっています。法人理念をもとに利用者との関わりを大事にし、「脇に坐って利用者と接することが仕事」とゆっくりした時間を持つように心掛けています。家族からアットホームな施設であるとの声が寄せられ、職員の自慢のひとつにもなっています。この数年は感染症のため外出や外部研修など利用者・職員ともに外部との交流が減少する中、職員は利用者と外出したいと思ひ、また、自分たち自身も緊急時の対応など幅広く学ぶ機会を持ちたいと願っています。緩やかな時間を利用者と共にしながらも、向上心を持ち続ける前向きな姿勢で、利用者本位の生活を目指している施設です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念を言い、各自が意識を持ち取り組む様に努めている。	法人理念は玄関に掲示しています。理念への意識を高めるため、朝礼での唱和は職員が持ち回りで行っています。「業務よりも利用者との関わりを大事に、坐って向き合い接するように」を第一に心がけています。ユニットで2ヵ月毎に目標を決め、会議で各ユニットの進捗状況などを伝えあっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、施設玄関前の掃除を行い、散歩等外へ出た際は挨拶を必ず行う。	隣家から柿や花が差し入れられることがあります。ユニット交代で施設の前の掃除をしていますが、ご近所の方から「あいする久世さんってどんどこ」と、親しく尋ねられることもあり、併設している休止中のデイサービスの部屋の活用について検討しています。地域の夏祭りは、参加予定でしたが台風で中止になりました。	広くて明るいデイサービスの部屋を運営推進会議だけでなく地域にも開放されてはいかがでしょうか。地域交流の場所になります。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて管理者より行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見内容を踏まえ、反映できる所は反映する様務めている。	自治会長・民生委員・地域包括職員の参加があります。5月からは対面での会議を行っています。会議では施設の様子などを伝えています。	知見を広げるためにも成年後見人に参加の声掛けをされてはいかがでしょうか。職員も交代で参加することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心に行っている。	中区グループホーム連絡会に参加し、連絡会の参加施設を見学するなど交流を行っています。施設見学をする中で新たに気づく事もあり、他事業所との意見交流もできています。福祉関係機関との連携を取り、生活保護制度利用者も受け入れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心としユニット事に実践している。防犯を踏まえ夜間は玄関の施錠を行っている。	玄関の施錠はしていません。ユニット間のドアは施錠していますが、利用者自身で開けることができます。身体拘束委員会は月に1回開催し、現在拘束にあたるような事例はありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心とし、職員全員で把握、理解し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者にて成年後見人制度を理解に努め、実際に後見人がついていての方が複数人入居されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者にて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様が来所した際に近状を伝え、その際に意見等伺っている。また、必要な際は電話連絡にてその都度、意見や相談を聞き要望等あれば反映する様に努めている。	毎月送る利用者の様子や写真で、こまめに状況を伝え、家族からは感謝の言葉が届いています。昨年11月からマスク着用で居室での面会を行っています。面会での来訪時に家族の要望等を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議にて意見や提案を職員より聞き、必要と思われる物は反映している。	職場の上下に関係なく意見を言うことができます。20年が経過する施設の修理の必要性について意見が出ることもあります。職員は家族の思いも自分の事として受け止めることができしており、利用者の昔の話の中に、自分とは違う世界観を見つけることに楽しさを感じ、利用者とは向き合い接することができるこの仕事に喜びを持って勤めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が来所した際に管理者より状況を聞き、他職員へ話しを聞き、意見を反映し環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現状、外部の研修に参加が難しく、主に内部研修にて対応		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者にて行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人としっかりお話をしニーズの把握に努めている。入居後、声掛け、談話を通じ安心して生活を送って頂ける様務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ニーズの把握に努め、面会や電話等にて要望等聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の情報を日々共有できる様にし支援を見極めサービスの提供を行える様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に談話等する中でその方の趣味、嗜好を把握し別メニューやおやつと一緒に考え楽しみながら生活を送って頂ける様務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人のその時々々の現状を理解して頂く為、細目に家族様へ報告する様にしつつ、問題点のみの相談だけでは面会等足が遠のいてしまう恐れがある為、接し方に気を付けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の面会において家族様確認のし特にストップ等掛かっていなければ快く受け入れ、こちらからの面会は難しいが年賀状や電話連絡等にて対応させて頂いている。	家族に送る写真は日常の何気ない表情のスナップ写真です。家族にはSNSが苦手な人も多いため月に1度の手紙を大切にしています。家族などから届いた手紙を自室テーブルに大事に置いている利用者もあり、文通も大切な繋がりのひとつになっています。また普段から利用者と一緒に写真を見て、撮影時の話をしたり、思い出話を聞いたりしています。面会が日曜日に限られる家族もありますが、事前予約で希望に合わせられるようにしています。利用者の友人が面会に来ることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々により関係性の変化がある為、表情に気をつけトラブル防止に努め、職員が間に入る事で利用者同士の良好な関係性を築ける様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	知り得る限りの情報を伝え、今までの御本人を知る物とし、相談に乗る様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	談話の中でその方の生活歴を可能な範囲でお聞きし、希望、意向の把握に努め、困難な際は御家族様に聞いている。	ホームの日課を決めてしまわないようになっています。入浴は週2回は入るといっただけで曜日は決めず、就寝もその人に合った時間になっています。夜はテレビを見ながら利用者同士で話をすることもあり、個々の緩やかな時間の流れの中、不安が少なくなるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や本人の中からの会話の中から引き出し、その事を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が得た情報等は連絡ノートや会議にて共有し、その時の現状を把握する様務めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議、またはその時々のカンファレンスにて話し合い意見を出し合い介護計画を作成している。	カンファレンスはユニット会議で行い、モニタリングも計画作成者が毎月個人ケースに記録しています。体調などの変化がなければ6カ月に1回計画の見直しをしています。家族には電話で意見を聞くようにしています。計画表をユニットに置くことで職員がいつでも確認できるようにしています。	計画書には体調・生活面での基本的な支援が全て挙がっています。一方、「今の生活を維持するための目標」の記載箇所がわかりにくいため、作成した計画の狙いが不明瞭になってしまっています。計画書の様式を検討し、誰もがわかりやすいよう改良されてはいかでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート、個別記録への記入にて情報を共有し計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で必要な介助、援助が出て来ると都度可能な範囲で対応する様務めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の状況にあった地域資源を活用できる様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>往診にて医師の診察を受けているが御本人や御家族が希望する病院があれば受診出来る体制いしている。</p>	<p>協力医療機関による内科医の定期的な訪問診療と訪問看護があり、24時間オンコール体制を整えています。利用者・家族等は、受診病院やかかりつけ医を自由に選ぶことができますが、現在全員が協力病院の内科医をかかりつけ医としています。その他、週1回の訪問歯科も実施しています。精神科や眼科等、他の病院を受診する場合は家族の同行が原則ですが、緊急時や家族同行が無理な場合は職員が対応します。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問の看護師と必要な情報の伝達、相談を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は可能な限りお見舞い等へ行き、聞く事が出来れば医師や看護師から現状を聞き相談するようにしている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約の際に御家族様には管理者より十分な説明を行っているが、実際にそうなった際は色々な可能性を早い段階から御家族に伝える様にしており御本人、御家族の意見は尊重するが出来ない部分は明確に伝えるようにしている。</p>	<p>「重度化された場合への対応に係る指針」を作り、「緊急時対応」と共に契約時に利用者や家族等にしっかり説明しています。指針には看取りに関する項目もあり「重度に至るまでの生活において、その人らしさを保てるよう支援する」として、急変や緊急時には医師や看護師と連絡を取り救急搬送すること等を明記し、利用者や家族等の同意を得ています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的な訓練は行っていないが、マニュアルを作成し職員に説明を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は昼夜の想定をし行っている。運営会議にて災害時の援助等について話す事がある。	消防署協力の元、利用者を交えた防火避難訓練を年2回実施し、実施状況を詳細に記録しています。発電機のほか、水、米など食品を備蓄し消費期限をチェックしています。	火災だけでなく地震や年々激化する風水害が増えています。防災マニュアルを定期的に見直し、全職員を対象に防災に関する研修や勉強会を実施することが望まれます。防災活動には地域の協力が欠かせません。運営推進会議等でも防災について話し合っはいかかでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	しっかり目線を合わせ、話しやすい雰囲気作りをし親しみのある声掛けを心掛けている。	「笑顔・言葉遣い・身だしなみ」を接遇のモットーに掲げており、管理者は利用者との会話では目線を合わせ、尊厳を傷つけない言葉遣いに留意するよう日々職員に話しています。職員は排泄時には当人の耳元で声がけし、トイレの扉を必ず閉める等、配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活やコミュニケーションの中で自由に声を出せる雰囲気を作り選択を自ら決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重し臨機応変に対応するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好みに合わせ対応し衣類の食べ溢しや汚れ等ある際は着替えを促し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備において個々が出来る事を一緒に 行う様にしている。	朝食とご飯はユニットのキッチンで炊事して います。昼・夜の副食は業者から配達された 真空調理済み料理を温めて提供して いますが、お好み焼きなら食卓のホットプレートで焼 くなどアレンジしています。また、利用者のリ クエストを受けて焼肉や素麺パーティを開い たり、毎月の誕生会では市販のケーキにひと 手間加えたり、季節の果物を添えるなど食を 盛り上げる工夫をしています。朝食時間は2 時間の幅を持たせ、利用者の生活リズムや 自己決定を尊重しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事量はその方に合わせた量を提供し水分 補給は適時行い人に合わせ状況、状態に よってはトロミ剤使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の口腔ケアを行い、不十分な所は職 員にて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄ペースを把握し、御本人のペ ースに合わせたトイレ誘導を行い、トイレでの 排泄が出来る様促している。	各ユニットにトイレが3カ所あり、うち1カ所は バリアフリートイレです。排泄チェックリストに 沿って最適な排泄支援を実施しています。現 在6割ほどが声掛けと見守りで自立排泄して おり、普段はリハビリパンツとパッドでも夏だ け布パンツを使用する利用者もいます。夜 間、居室でポータブルトイレを置いている人 も、誘導でトイレを使用するケースがほとんど です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	水分摂取以外にも体操等にて身体を動か し、排泄に向けた正しい姿勢を確保する様 に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状特別、夜間帯に入浴したいという希望が無い為、日中に時間を設け、御本人の意思、希望を確認し入浴して頂いている。	入浴は1対1介助で原則週2回ですが、曜日や時間を決めず毎朝、利用者自身に入りたい時間など意向を尋ね、3回以上になっても柔軟に対応しています。入浴を好まない利用者には無理強いせず、声がけする職員を変えるなどしています。重度化や体調によって浴槽に浸かるのが難しい場合はシャワーチェアでの入浴になります。シャンプーや石鹸等は好みのものを使用でき、入浴剤の使用や冬至には柚子風呂も実施します。	併設された法人のデイサービスセンターには機械浴を備えた大浴場があります。以前は重度化したホームの利用者もこの機械浴を利用していました。コロナ禍以降、デイサービスの休業に伴い使用できない状況です。継続使用は無理でも、ここで単発の「入浴イベント」を企画するなどしてはいいかでしょうか。重度化しても浴槽に浸かっての入浴に期待がかかります。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人が思う様に生活をして頂ける様に努めており、常に表情等把握し傾眠等あれば身体休めて頂く様、臥床促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更時、ケースや連絡ノート、引き継ぎ表に記入し全ての職員が把握し個々に合わせた服薬をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いや掃除等無理のない範囲内で出来る事を行って頂き、外気浴や散歩等の外出等にて気分転換をして頂く様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、感染予防の観点から外出や買い物等は中止しているも今後の情勢の応じ緩和に向け対応していく予定。また、現状、食べたい物あれば聞いて対応している。	利用者は日常的に職員と一緒に近くにある地蔵参りや散歩を楽しんでいます。その道中、草花を摘んで部屋に飾ることも日常です。また、1階には中庭や2階には回廊式のベランダがあり、利用者は外気浴を楽しんでいます。職員はコロナ禍前のように車を使っでの遠足が再開できることを心待ちにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個人で持たず、施設管理にて対応し購入の際は施設側にて支払っているが可能な方には自らお支払いして頂いている。その際のお金は個人で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応し年賀状等も出す様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏季、冬季共に室温管理の他、湿度管理も出来るだけ行い、共有空間には空気清浄機を設置し清潔を保つ様に努めている。	ユニットの玄関先やリビングには、散歩の途中で摘んだ草花や、利用者と職員と一緒に作った四季折々のちぎり絵などを飾り、季節感を出しています。空気清浄機を備えた清潔で明るいリビング空間は窓越しに陽射しが注ぎ、天窓のある2階のユニットでは軽やかな布のシェードで陽射しを調整しています。利用者と職員は食卓テーブルを囲んでゲームをしたり、椅子に並んで腰掛けて会話を楽しんだりしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の落ち着ける場所があり、その空間でくつろげるよう配慮、支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みの物があれば持参して頂き、その方にとって居心地のいい空間作りが出来る様に努めている。	ベッドと洗面台、エアコン、カーテン、クローゼットを備えています。利用者はクローゼットに整理収納ケースなどをセットしてすっきり使っています。テレビや家具、仏壇、写真や人形、雑貨、趣味の品々を持ち込み、毎朝、ユニットに配達される新聞を見て好きなテレビ番組をメモする人もいます。家族の協力が得られない場合は、ホームにある収納棚や職員が贈った誕生祝いの色紙を飾るなどして部屋作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の変化や変動に配慮し、個々のペースに合わせて対応を行っている。		